

社会科学学習指導案

令和3年2月3日（水） 第5学年1組（5年1組教室） 指導者 佐藤 真樹

【単 元】情報を生かすわたしたち

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	・ ネットリテラシーやインターネットを使用する上でのルールやマナーへの理解と統計資料やパンフレットなどで調べ、まとめる技能	・ 情報活用の在り方について、情報活用と自らの生活に与える影響とを関連付けて考え、表現する力	・ 情報活用の在り方についての問題を主体的に調べ、今後の自らの情報との関わり方について考える力
児童の実態	・ 統計資料から傾向を読み取り、情報は社会や各組織を効率的に運営するために不可欠なものであることを理解している。 ・ 情報活用には危険が生じることは知っているが、原因や対策への理解は十分でない。 ・ 資料の数が多くなると適切に事実を調べることが困難になる。	・ 販売の仕事における情報活用の仕方について、過去と現在を比較したり、国民生活と関連付けてその影響を考えることができた。 ・ 情報が自らの生活に与える影響を考えることが難しい。	・ 販売の仕事における情報活用の仕方に疑問や関心をもち、問題を主体的に追究してきた。 ・ 情報化社会の利便性を感じているため、情報との関わり方を見いだす必要性を感じている。
価値	・ インターネット普及率、端末の個人保有率の増加により、買い物、情報の獲得、会話等において、国民生活の利便性は大きく向上した。一方で使用の低年齢化により、小学生が関係するトラブルは増加傾向にある。各省庁からは、個人情報の漏洩や知的財産権の侵害、フェイクニュースに扇動された事例が紹介されている。これらのトラブルを避けるには、被害者だけでなく自らが加害者にもなり得るという視点を持ち、情報やその発信源の正しさを判断したり、人々の役に立つ使い方をしたりできるようにする力（ネットリテラシー）が求められる。このような情報活用の在り方を知ることで、情報化した社会における自らの情報との関わり方を考えることができる。 ・ トラブルを避けるためには、ネットリテラシーを身に付け、情報の送り手、受け手それぞれの立場でルールやマナーを守って情報と関わる大切であるという概念的知識を獲得できる。	・ インターネットに関する生活経験は多様なため、情報活用の在り方について各々の考えを比較して共通点や相違点を見いだしやすく、情報活用と自らの生活に与える影響を関連付けて考えられる。	・ インターネット使用が日常的であるため、追究内容を身近に感じられる。 ・ 学習内容をすぐに現実と結び付けられる。
見方・考え方	情報活用の在り方について、インターネットトラブルの原因と対策に着目して捉え、自らの生活に与える影響と関連付けて考えること。		
今後の学習	5年「自然災害から守る」で、災害の分布に着目して国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考える学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

単元	情報を生かすわたしたち			
目標	情報活用の在り方について，各種の資料で調べ，自らの生活に与える影響を考えることを通して，情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方，適切に情報を見極めたり，活用したりする必要があることを理解する。			
評価 規準	（①知 ・ 技）情報活用の在り方について，ネットリテラシーを身に付け，情報の送り手，受け手それぞれの立場でルールやマナーを守って情報と関わる大切であることを理解している。 情報活用の在り方について，統計資料やパンフレットなどの資料を活用し，必要な情報を読み取ったり，まとめたりしている。 （②思・判・表）情報活用の在り方について，学習問題を見いだしたり，情報活用と自らの生活に与える影響とを関連付けて考えたりし，表現している。 （③主体的態度）情報活用の在り方に関心を持ち，予想や学習計画を考え，意欲的に調べ，自らの情報との関わり方について見直し，今後について決定している。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○情報活用の在り方について問題意識をもつ。 —— 学習問題 —— トラブルを避けるためには，インターネットとどのように関わっていくことが大切だろうか。	○情報活用の在り方について疑問や調べたいことを考えられるように，SNSによるトラブルやネット上の詐欺等の新聞記事を用意する。	◇情報活用の在り方について疑問や調べたいことを発言したり，記述したりしている。＜学習プリント・発言②＞
	2	○情報活用に関するトラブルと原因について調べる。	○複数のインターネットトラブルを比較できるように，小学生のネット利用実態調査やトラブル事例集などの資料を用意する。	◇インターネットに関するトラブルは，匿名性や痕跡の少なさ，時間的，空間的な制約を受けないことが主な原因であることを記述している。＜学習プリント①＞
・ま 生と かめ する	1	○情報活用の在り方について学習問題の結論を出す。 （本時）	○情報活用の在り方について，それぞれの考えの共通点や相違点を見いだせるように，考えと根拠を視覚化して表現することを支援する図を用意する。	◇インターネットに関するトラブルを避けるためには，適切に情報を選択，活用し，ルールやマナーを守って情報と関わる大切であることを記述している。＜学習シート②＞
	1	○情報活用宣言をまとめる。	○自らの情報との関わり方を見直すように，ランキングシートを含んだ学習プリントを用意する。	◇これからの自らのインターネットとの関わり方について，これまでの学習内容を根拠にして記述している。＜学習プリント③＞

本時の学習(4 / 5 時間目)

ね ら い 情報に関するトラブルを避けるために必要なことについて、タブレット上のシートを用いてまとめ、それぞれの考えを比較しながら話し合うことを通して、情報に関する加害者、被害者にならないためには、ネットリテラシーを身に付け、ルールやマナーを守って情報と関わるのが大切であることを理解する。

評価項目 インターネットに関するトラブルを避けるためには、適切に情報を選択、活用し、ルールやマナーを守って情報と関わるのが大切であることを記述している。 <学習シート②>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・トラブルを避けるための情報活用の在り方について学習問題の答えを出すのだな。自分の個人情報を守ることが大切だと思うけど、友達の考えを知りたいな。 (問題意識) めあて：インターネットの使い方について、学習問題の答えを出そう	○トラブルを避けるための情報活用の在り方についての学習問題の答えを出すという本時の学習の見通しをもてるように、これまでの学習内容をまとめた掲示物を提示し、本時に話し合う内容を問いかける。
2 トラブルを避けるための情報活用の在り方について話し合う。 ・ぼくは、インターネットの情報が正しいかどうか判断することが大切だと思うな。フェイクニュースの事例と発生件数のグラフを使って考えを説明しよう。 ・友達個人情報を流出させないことが大切だと考えているのだね。でも、通信販売を利用するときは絶対に個人情報を入力するよ。後で、質問してみよう。 ・大切なのは、個人情報を入力しないことだけでなく、安全なサイトか判断することなのではないかな。情報やその出処の安全性や正確性を判断することが大切だと言えるね。 ・クラス全員の考えの共通点は、必要な情報を選んだり、正しい方法で情報活用したりすることが大切だということだね。これをネットリテラシーというのだね。 ・トラブルは自分が被害にあうことだけでなく、写真などで友達の個人情報を流出させて加害者になることも考えなくてはいいのではないかな。 ・トラブルは、自分が被害者になるだけでなく加害者になることもあるから、そうならないために、ネットリテラシーを身に付けて、自分の行動の影響を考えながら使っていくことが大切なのだね。 (問題解決した意識) 3 本時の学習の振り返りをする。 ・トラブルを避けるために大切なことが分かったよ。次の時間には学習したことを生かして、情報との関わり方についてこれからの自分の行動を決めよう。	○自らの考えを視覚化して伝えられるように、考えと根拠となる資料を貼付するシートをロイロノートで配付し、資料の着目した箇所や資料同士の関係性を記入するよう促す。 ○自他の考えを比較して共通点や相違点に気付けるように、提出箱のシートの内、小集団のものを共有する時間を確保する。 ○自他の考えの不確かさや妥当性に気付けるように、2, 3人の小集団を編制し、相違点に着目して聞くよう促す。 ○自らの考えを確かにできるように、情報活用の在り方について考えや根拠を再考する時間を確保する。 ○ネットリテラシーの意味を知ることができるように、発表された内容を色分けしたり、関係性を線で結んだりして板書し、共通点を問いかける。 ○トラブルに関わる対象について複数の立場の状況を想定できるように、被害者と加害者という視点を提示する。 ○学習成果を実感できるように、トラブルを避けるための情報活用の在り方についての学習問題の答えを出せたことを称賛する。

授業の振り返り		※授業の様子は、本校HPでも紹介しています。 【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】
機器	タブレット（一人一台）、大型モニター	
使用アプリ	ロイロノート	
機能など	撮影機能 画像加工機能（編集、強調） 提出箱、解答共有機能（共有、比較）	

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 本時の導入において、児童はインターネットについて、自分たちの利用状況や、普及率の上昇に伴う諸問題等を確認した。児童は、個人情報に絶対に盗まれたくないことなどを発言した。学習問題を設定した経緯や既習内容を確認することを通して、インターネットとの関わり方について、学習問題の答えを出すという目的意識をもった。

【展開】 話合いの前に一人一人がタブレット端末上の学習シートに、インターネットとの関わり方についての自らの考えを書き、その根拠となる資料を貼付した。「何かを投稿するときは、冷静に判断する」ことが大切だと考えたA児は、まず、インターネットトラブル発生件数の資料を貼付し、送り手の

配慮が不足なかったことが原因で発生したSNSトラブルに関連する内容に印を付けた。そして、カメラ機能で撮影したいくつかの資料を貼付したり、削除したりした後、インターネット利用時間が長い児



＜自他の学習シートを共有、比較している画面＞

童のトラブル傾向を表す資料を貼付し、初めての資料と矢印で結んだ。次に、作成した学習シートを提出箱に入れ、左ページのように3人の小グループでお互いの考えや根拠を共有した。児童は、友達の選択した資料を拡大して選択した意図を考えたり、自分の考えや根拠との相違点に色付けしたりしていた。その後、小グループでの話合いを行い、自らの学習シートを示しながら、考えと根拠を伝え合った。小グループでは、B児の「個人情報を載せない。」という考えに対して、次のような対話をしていた。



＜画面を見せながら話し合う様子＞

- A: (C児の貼付したネットショッピング利用者数のグラフに増加傾向を矢印で書き込みながら) **個人情報を載せないのは大事だけど、買い物するときには、絶対載せるよね。今後、買い物しないことって絶対に無いよ。**
- B: **確かに。安全なサイトやアプリにだけ載せてよいということかな。**
- C: **安全性を判断することが、私達の考えの同じところだね。**

この対話でA児は、自他の考えを比較し、事実同士の関係性を伝えることで、C児が「安全性を判断する」と知識を概念化することを促したと言える。その要因は、ICTを用いた考えや根拠の視覚化、共有化により、A児が自他の考えや根拠の相違点を見だし、B児の考えの不確かさに気付いたことと考えられる。一方、互いの学習シートに記述された考えや根拠を称賛し合うのみの小グループもいた。これは、互いの考えの相違点に気付くことはできたものの、根拠となる資料の配置がそれぞれ異なったため、事実同士の関係性を見出すことが困難であったことが要因と考えられる。

【終末】 話合いの結果を学級全体で共有すると、児童は考えの共通点を基に「人に役立つ使い方をすること」と、「安全かどうかを判断すること」を見だし、これら2つの力が「ネットリテラシー」だと知った。最後にトラブルに関わる対象者を話し合い、学習問題の答えを「被害者にも加害者にもならないために、ネットリテラシーを身に付け、安全にインターネットを使っていくことが大切だ。」とまとめた。

○授業改善に向けて

知識の概念化を促進するには、話合いの中で互いの考えや根拠の共通点や相違点だけでなく、事実同士の関係性を見だしやすくすることが必要である。そのため、学習シートに思考ツールの要素を加えていくことが有効と考える。